

## 第 10 回 ヘルスケアイノベーションコース オフィシャルミーティング

### 「医工連携が拓くヘルスケアの創造的な未来」開催報告

開催日時：2026 年 3 月 7 日（土）13:00～17:00（受付 12:30～）

開催場所：高知大学医学部 実習棟 3 階

開催形式：ハイブリッド形式（参集+オンライン同期型+期間限定見逃配信）

参加費：無料

主催：高知大学医学部 連繫医工学分野

参加数：33 名（参集：16、オンライン同期型：7、期間限定見逃配信：10）

#### 開催概要

2026 年 3 月 7 日（土）、高知大学医学部において「第 10 回 ヘルスケアイノベーションコース オフィシャルミーティング」を開催した。本会はハイブリッド形式で実施し、「医工連携が拓くヘルスケアの創造的な未来」をテーマに、医療・工学・情報・産業界の多様な視点から、これからのヘルスケアのあり方について考える機会となった。

冒頭のオープニング講演では、キャノンマーケティングジャパン株式会社 R&B 推進本部の廣瀬智一氏より、「未来から現代ヘルスケアを見る」と題してご講演いただいた。講演では、将来のあるべき姿から現在を捉え直すバックキャストの考え方に加え、未来から今の社会や医療、事業、意匠のあり方を構想する視点が示された。商品開発やプラットフォーム開発も含め、医療・工学・意匠を横断してヘルスケアを考えることの重要性が語られ、参加者にとって未来起点で現在を見つめ直す意義を考える機会となった。

続いて、Student Research Presentation では、ヘルスケアイノベーションコース令和 7 年度生の田井裕也氏より、「ヘルスケアイノベーションコースから得た知見と研究への応用－患者補助器具の開発－」と題した発表が行われた。発表では、臨床現場における移乗介助の負担や、日本の居住環境に適した支援機器の必要性を出発点として、移乗支援機器の開発に取り組む過程が紹介された。試作と改善を重ねながら研究へ結び付けていく実践的な姿勢が示され、現場ニーズに根差したものづくりと研究の意義が共有された。

後半のシンポジウム「医療ニーズを支える理工学の力」（DC セミナー兼）では、医療現場が直面する課題に対し、理工学がどのように応え得るのかについて、多角的な視点から議論が行われた。

浅野拓司氏の講演では、基礎研究からマーケティングまでを一貫して担ってこられたご自身の歩みを踏まえながら、医療系ものづくりに対する強い思いが語られた。アンメットメディカルニーズに向き合い、技術を使用者価値や患者 QOL、さらには事業としての価値へと結び付けていくことの重要性が示されるとともに、大学発技術や産学連携による医療機器開発においては、研究成果だけでは製品化に至らず、出口戦略、組織体制、人材育成、企業側の理解といった多面的な取組が不可欠であることが共有された。講演全体を通して、技術を社会へ届けるために何が必要かを、実践に裏打ちされた言葉で考えさせられる内容であった。

川下郁生氏の講演では、DC セミナーとしての教育的側面も踏まえ、工学、とりわけ数式や数理的原理がどのように医療画像へ結びつくのかについて、CT の再構成原理を中心に紹介いただいた。フーリエ変換やフーリエ級数といった数学的基盤に加え、AI を用いた再構成技術、さらに最新技術としてフォトンカウンティング CT にも触れながら、工学が最先端の医療機器に果たしてきた役割とその発展について理解を深める内容となった。なお、川下氏には ECR2026（欧州放射線学会）出席のためウィーン滞在中にもかかわらず、現地早朝の時間帯に Web にてご講演いただいた。

先崎心智氏の講演では、人口減少や人材不足など、現在の医療を取り巻く社会的背景を踏まえ、医療における AI 活用の必要性と今後の展開について紹介が行われた。あわせて、病院が保有する DWH の融合や、

それを支えるネットワーク構成の重要性、膨大な医療データを AI で解析することによる医療への貢献可能性についても示された。さらに、量子コンピュータを用いた医療や疾病解析の将来展望にも言及があり、次世代技術が支える今後の医療の可能性について考える機会となった。

本会を通じて、医療現場の課題解決には、医療と工学、情報、産業界が連携し、それぞれの知見を持ち寄ることが重要であることが改めて共有された。ヘルスケアイノベーションコースが目指す分野横断的な人材育成と社会実装志向の学びを体現する場として、今後の医工連携のさらなる発展が期待される会となった。



会場風景



廣瀬智一氏(左)と司会の渡橋名誉教授



浅野拓司氏(左)と司会の宮田特任教授



田井裕也 氏



先崎心智氏(左)と司会の宮田特任教授